

初夏の林縁で、鮮やかな赤色に熟したクサイチゴの果実に出会いました。クサイチゴ(草苺 *Rubus hirsutus*)は、バラ科キイチゴ属の野生植物で、日本各地の山野や雑木林の縁に普通に見られます。春には白い花を咲かせ、その後、小さな粒が集まった集合果を育てます。写真の果実は、まさに完熟した状態で、一粒一粒が半透明に輝き、みずみずしい質感がよくわかります。

果実は最初は緑色ですが、成長につれて橙色を経て鮮紅色へと変化します。熟すにつれて柔らかく甘みが増し、野生の果実としては驚くほど美味です。市場に流通することはほとんどありませんが、昔から山歩きや野遊びの途中で摘んで味わう「自然のおやつ」として親しまれてきました。果実の表面に見える細かな毛や、花の名残である萼片が星形に開いている様子も、野生植物らしい力強さを感じさせます。

クサイチゴは低木ですが、地面近くに枝を広げて群落を作ることが多く、鋭い刺を持つため不用意に触ると痛い植物でもあります。その一方で、初夏の林の中に突然現れる赤い果実は非常に印象的で、緑一色の景色の中で小さな宝石のように輝きます。鳥や小動物たちもこの果実を好み、種子を運ぶ役割を担っています。人と野生動物の双方に親しまれてきた、日本の里山を代表する野生果実の一つです。

(2026年5月中旬/文京区小石川植物園内)

